

特別対談

「新しいガン治療」日本と中国のホリスティック医学、中西医結合医学の権威が徹底討論！

# 新しいガン治療 中西医結合医療の現場から提言

●帯津良一（帯津三敬病院名誉院長 日本ホリスティック医学協会会長）  
●王振国（振国腫瘍病院院長 国際癌病回復協会会長）



帯津良一（帯津三敬病院）☎049-235-1981

http://www.obitsusankei.or.jp/ http://www.obitsu.com/  
帯津三敬病院は、ガン治療に中西医結合医療、代替療法などを積極的に取り入れ、ホリスティックなアプローチになる病院として注目され、全国からガン患者が来院することで知られている。帯津三敬クリニックは、漢方や代替療法などの相談、診断も行っている。

王振国（国際癌病回復協会日本支部）☎03-5785-2249

http://www.tensen.com/ http://www.irca-japan.com/  
国際癌病回復協会（本部・香港）は世界9カ国に支部があり、天仙液の開発者である王振国医師が会長となっており、ガンと闘う人々をサポートして、世界中で講演会、講習会、慈善活動や天仙液などの情報の提供、資料の提供も行っている。

※注1：「中西医結合医療」とは、西洋医学の診断や手法、治療も取り入れ、中国医学の治療を中心として施すという医療モデルである。ガンをはじめとする生活習慣病、慢性疾患に対する治療戦略として、中国政府が「中西医結合医療」を宣言して以来、中国医学が西洋医学と共に学校教育・医師の資格・医療制度などの面で同じような体制をとり、「漢方医学」「漢方薬」発展の礎となっている。なかでも、特効薬を見出せないガン治療の分野において、近年、新しい治療戦略として「中西医結合医療」という方向性は、中国のみならず、欧米や日本でも注目されている。

※注2：「天仙液」は、現段階では日本の厚生労働省から医薬品としての許可を得られておらず、あくまでも海外における漢方薬（医薬品）としての見方である。従って現在のところ、入手するには、香港で直接入手するか、指定個人輸入代行会社（株式会社ヘルス・ネットワーク ☎03-5778-2341）に依頼する方法がある。

患者に期待される「ガン治療」とは…  
帯津 「ガン患者さんを何とか救いたい」と考えて、新しいガン治療に向かってスタートしたのは、王先生と時を同じくしていましたね。いまのガン治療は手術や抗ガン剤、放射線治療だけではなく、最先端治療も開発されています。でも、どれも「ガン細胞は叩くが、正常細胞も叩く」という手荒い治療ですから、私どもの病院に駆け込んでくる患者さんの苦しみや痛みをみるにつけ、西洋医学による治療の限界を肌身で感じていたわけです。



王先生の病院を訪問して、治療成果を検証する帯津先生

王 帯津先生は西洋医学の外科医として、私は中国医学からと、立場は異なっていますが、「新しいガン治療」という目指した方向は同じだと思います。もっと「身体に優しいガン治療」はできないものかと、人間の身体全体のバランスから診て、免疫力を高めることに重点を置く中国医学と、細胞の細部から診て、エビデンス（立証）を最重要視する西洋医学の長所を取り入れた「中西医結合医療（※注1）」を実践する病院を珠海、通化、上海、北京に設立してきました。

帯津 私は「ガンはあきらめてはいけません」と「中西医結合医療」「ホリスティック医療」を旗印に、25年ほど前に病院を開設しました。でも、当時は見向きもされず、孤軍奮闘の毎日でした。大病院などでは、末期ガンや再発したガン治療が手詰りになると、手の施しようがなくなり、人間の命を「心身一如」（心と身体は一つである）と考える中国医学から考えると、実におかしいわけです。

王 帯津先生は孤軍奮闘で中西医結合医療を実践されていた当時、私が開発したガン治療薬「天仙丸」が、中国政府から初めて抗ガン漢方薬として認可されました。その天仙丸に注目して頂いて、帯津先生の著書「健康革命」に取り上げられたのも、その頃でした。ただ、本の中で「漢方薬のなかでも、刺激が強すぎて胃壁を痛めることがあるから、飲みやすいものがない」と書かれていました。

帯津 1970年代の半ばですが、当時、私は「ガン」を漢方薬で治す、心で治すなんてことはしない。ガンを治すのは外科手術だ」と思っていました。けれども、一生懸命に手術をしてもガン患者さんが転移や再発で戻ってくる。どうも、医学の進歩に見合っただけのガン治療の成績が上がらないことに疑問を感じていました。そこで、西洋医学の限界はどこにあるのかと考えると、臓器や局所や部分しか診ない西洋医学の強みが、同時に限界でもあるのではないかと分かったのです。部分と部分、臓器と臓器の関連性、身体全体がどのように機能しているのかの見識に乏しい。そこで、西洋医学の限界を超えるためには、部分と部分、臓器と臓器のつながりを診なければだめだと思いい、身体全体のつながりを診る中国医学に注目して、何度も中国へ行き、専門の先生にも会って勉強をしました。そして、従来にも西洋医学に加えて、中国医学の四本柱である漢方薬、鍼灸、気功、食養生をガン治療に取り入れる中西医結合医療の病院をつくったのです。

命の可能性を生かすホリスティック医学  
王 15年ほど前ですが、帯津先生は初めて私どもの研究所に来られた日本の医学界のエキスパートで、非常に光栄で感謝しております。その後、私は天仙液が完成して、中西医結合医療の勉強とガン治療の研究

帯津 ホリスティック医学協会は当初、非常にアンチ西洋医学的な色彩が強かったのです。私は西洋医学は西洋医学として価値を認め、中国医学の長所と補い合う中西医結合医療の要素がなければ、ホリスティック医学とはいえないと思っていました。そこで、さらに身体だけではなく、心、命の全てを診るホリスティック医学の考え方による「ホリスティック医療」に強い関心を持ったのです。また、ホリスティック医療の全てを手に入れたわけではありませんが、人間本来の医学、医療であり、西洋医学の限界を超えるためにはないかと期待しています。これからのホリスティック医療は「いのちの場」の医療であり、「いのちの可能性」を生かす医療として、「新しいガン治療」の地平を見つめる医療となるでしょう。

**新刊書籍「新しいガン治療 もうひとつの地平を見つめて」を抽選で20名様にプレゼント！**

■応募締切2006年12月20日

■ハガキにてご応募の方：ハガキの裏面に所定の事項を記入の上、ご応募ください。

①ご覧になった誌名  
②住所・氏名・年齢・電話番号  
③「新しいガン治療 もうひとつの地平を見つめて」プレゼント希望  
お申込み先：〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-7 戸田ビル3F  
(株)K&Bパブリッシャーズ 書籍プレゼント係

■メールにてご応募の方：下記のサイトの入力フォームにて、ご応募ください。  
http://www.atarashii-ganchiryu.com/present.html

**帯津良一先生 待望の書！最新刊！**

**新しいガン治療 もうひとつの地平を見つめて**

帯津良一 帯津三敬病院名誉院長・日本ホリスティック医学協会会長  
王振国 振国腫瘍病院院長・国際癌病回復協会会長 共著

「中西医結合医療」の現場から提言！  
「新しいガン治療」への実践書として期待！

日本のホリスティック医療の第一人者、帯津良一医博と、中国のホリスティック医療の第一人者、王振国医師との対論を中心として、二人の新しいガン治療への取り組みなどを紹介。西洋医学と中国医学の長所を取り入れた「中西医結合医療」から、「ホリスティック医療」まで、「新しいガン治療」について語る。これからの全く新しい「ガン治療」の実践書として期待されている最新刊！

ホリスティック医学を代表する世界的権威による対論  
日本と中国の医師が語る「中西医結合医療」

株式会社K&Bパブリッシャーズ 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-7 戸田ビル3F TEL.03-3294-2771/FAX.03-3294-2772  
http://www.kb-p.co.jp/